

校長室より

第39号

「天空高き」



平成24年9月15日

「元気」・「やる気」・「本気」の65回運動会！

今日は朝から、「ガシャ、ガシャ」、「カチン、カチン」という金属音が、グラウンドから響きます。体育の時間を使って、運動会で使用したテントの後片付けやフェンスを固定するための金具打ちの作業が行われていました。

運動会は9日の日曜日に終わりましたが、本当に終わったのは今日、11日の火曜日ということになります。

教職員の皆さん、特に体育主任の西村崇先生を中心に体育科の先生方には準備を始めとして当日、後片付けと大変お世話になりました。

今回は日差しがきつなく、気温も30度を超えることのない、格好の運動会日和でした。

準備期間は短く、練習らしい練習もほとんどすることなく当日を迎えましたが、生徒たちはもちろん、観覧のご来賓や保護者の方々も運動会を心から楽しんでくださっているように思えました。皆さんのはち切れんばかりの笑顔は本当に素敵でしたが、一だけお願いがあります。次回は、本校の伝統種目となっています「大行進」は3年生を中心に後輩である1、2年生をリードして、「高水の活気を観覧されているご来賓や保護者の方に見せてもらいたいと思います。

全中学生による「台風の目」や、高校1、2命さが観る側に楽しさを与えている種目でした。また、「時空の戦艦」は、時空の艦隊を凝らしており、選手の真剣さが観客に面白さを与えていたように思います。

高校3年生による「フォークダンス」・「人生航路」は、演じている生徒たちも観ている者も一体となって、アットホームな気持ちにさせてくれました。





中学生による「応援合戦」は、夏休みから3年生がリーダーシップを発揮しての本校伝統種目になっていますし、保護者の方や高校生も毎年楽しみにしています。「クラス別対抗リレー」は衣装も目を楽しませてくれています。出場選手のクラスを賭けての真剣度が、観る側にも伝わってきます。「各色対抗リレー」も各隊を代表しての名誉を背負っての必死さが伝わってきます。

若者らしい「本気」は観る者に清々しさや感動を与えてくれました。

最後に、高水の「元気」「やる気」「本気」を来週の「第4回楽学祭」に、中学生による「音楽会」に引き継いでもらいたいと思います。

9月16日から就職試験が解禁になります

7月末で、山口県内の求人倍率は0.68倍で、前年同期に比べ若干低下しています。

0.68倍ということは、100人の就職希望者に対して68名しか就職できないということです。高校生にとって山口県内で希望の職種に就くということは大変厳しいことになります。

今年は36名の生徒が学校推薦で就職試験に臨みます。彼らは、夏休みの8月16日から履歴書の記入方法や面接練習等の最後の仕上げをしてきました。

企業が採用するときに重視するのは、基本的なマナー、基礎学力。そしてコミュニケーション能力です。特にコミュニケーション能力が一番重要です。ではいったい企業が求めるコミュニケーション能力とは何でしょうか。

1つはホウ・レン・ソウです。上司や同僚への報告・連絡・相談です。2つ目は、調整能力で、いわゆる、根回しとか人付き合いとか、そういった日本的な言葉で語られるものだと思います。3つ目は、表現力です。

これらの力はすべて、普通の学校生活の中で身に付いていくものです。しかし、いざ就職試験本番で、それも緊張状態の中で、普通の自分を見せられるかということと難しいと思います。やはり、それなりの準備は必要なことです。

緊張するということは、集中力が高まった状態をいいます。過度に緊張すると、心拍数や体温が上昇し汗をかきます。必要以上に緊張しないようにするためには、やはりトレーニングが必要です。履歴書の書き方からスタートして、面接では多くの先生方にお世話になったと思います。場数を踏むことで、自信が付ききます。私も協力して面談等に付き合い

「健全なる肉体に 健全なる精神が宿る」

古代ローマ時代の風刺詩人 ユウェナリス

ますので、遠慮なく校長室を訪ねてください。良い準備は良い結果をもたらします。みなさんの「元気」「やる気」「本気」に期待します。

コーヒーブレイク 「 かわいい 校長室の来訪者！ 」

ある日の放課後、校長室の前の廊下を何度も行き来している女子生徒がいました。「何か用事か？」と声を掛けると、二人の女子中学生が入ってきました。はにかみながら、あるお笑い芸人の芸（CM）をするので、私に見て欲しいということでした。

早速、校長室のソファでその芸を披露してくれました。その芸（CM）をテレビで見たことがなかったので、コメントできませんでしたが、その前にすでに笑っていました。演じるときの彼女らの表情の切り換えと度胸にはびっくりさせられました。と同時に、つかの間の、心の和むひとときとなりました。

数日経過して、放課後、校長室の前の廊下をまた、彼女らがうろうろしています。「入って来い！」という、はにかみながら、今度は別のお笑い芸人の芸（ショートコント）を見せてくれました。このコントにも、思わず笑ってしまいました。

普段、彼女らの態度や行動は、素直でまじめな生徒という印象でしたので、まさかこんな意外な一面があるとは思いませんでした。でも、こんな来訪者は 大歓迎です。

「NEVER GIVE UP！」第4回楽学祭に向けて

今年のテーマは「NEVER GIVE UP！」です。生徒会を中心に最後の仕上げの段階だと思えます。皆さんの心にいつまでも残る楽学祭にしましょう。

昨年度、保護者アンケートの結果はおおむね好評でした。ただ、生徒の皆さんの聴く態度、私語に問題がありました。発表者は長い時間を掛け準備しています。一生懸命に発表しています。生徒の皆さんはそれにどう応えるかは、わかっていると思えます。

あなた達が赤ちゃんの時に、お母さんやお父さんに、あなたの発する言葉を一言も漏らすまいと、いわゆる、聞き耳を立てます。今度は、生徒の皆さんが、聞き耳を立てる番です。

生徒会は、保護者公開から一般公開に向けて全力で本気で取り組んでいます。皆さんも「本気」でそれに応えるべきです。私も「本気」で、全力投球で応援します。

右のページの作文は、「甦れ日本！高校生アスリート作文コンテスト」で全国高等学校体育連盟会長賞を受賞した、岩手県立黒沢尻北高等学校2年佐藤諒君の作品です。字が小さく読みにくいかもしれませんが、しっかり読んでもらいたいと思えます。東日本大震災から1年半が経過しました。被災地ではまだまだ復旧、復興にはほど遠い状況です。しかし、若い世代は新たなる第一歩を踏み出しています。今一度、我々にできることは何なのか、学ぶべきことは何なのか。考えてみましょう。

